

## 博士論文の内容の要旨

専攻名 国際学研究専攻

氏 名 三浦美恵子

本研究は、障害と能力・才能が共存する事例研究を行うことを目的とした。先行研究やアメリカにおける実践例等を検討した上で、音楽と美術の能力が引き出された2人の事例を示し、発達障害を持つ人々の療育と指導の在り方について具体的な示唆を得た。

第1章「特別支援教育の対象となる児童生徒」では、特別支援学級に在籍する日本人と外国人児童生徒について概観し、とりわけ発達障害に注目した。また、2016年に文部科学省が実施した25市町の特別支援学級における外国人児童生徒の在籍状況調査から、外国籍・外国につながる（片親が外国人である等）・日本人の児童生徒の在籍状況について整理・検討した。今後の課題として、障害が疑われる子どもの就学先が決定されるプロセスや日本における障害の定義が外国人の児童生徒においても妥当なものか検討すること、多文化背景の子どもたちに適したアセスメントの必要性について言及した。

第2章「先行研究」は、大きく以下4つから成る。初めに、日本人の発達障害児・者に焦点を当て、その診断・教育・子育てにおいて、医師・教師・保護者らがさまざまな課題に直面していることを示した。続いて、発達障害を有する外国人児童生徒について、外国人学校における障害・特別ニーズを有する外国人児童生徒の在籍状況等について概観した。また、就学先の決定については、外国人児童生徒に対するアセスメントの現状や課題、本当は障害がないにも関わらず誤った判定が下された事例についても報告した。最後の障害と能力の共存については、1920-70年代に海外で報告された研究を紹介した後に、日本人の研究者による近年の研究について言及した。

第3章「障害と能力・才能は共存する—Twice Exceptional (2E)」は、2E (Twice Exceptional: 障害と才能を併せ持つ人々) の先進国アメリカにおける2Eの歴史、法律、定義、識別方法、各州における2E児童生徒の在籍状況と教育プログラムに関するものである。本章後半には、2021年11月以降、メリーランド州のモンゴメリー公立学校に勤務する2Eの専門家やその他関係者から直接聞き取った情報も含まれている。本章で得られた知見として、障害と才能は共存し得ること、アメリカでは、発達障害に限らずさまざまな障害をもつ人々が2Eの対象となること、特別支援教育の対象となる子どもたちの総数などに関するデータが一般公開されていること、英語を母語としない子

どもたちに対して、言葉を介さずに使用できる非言語性の知能検査（UNIT、NNAT、Cog ATなど）が使用されていること、長年に渡り一貫した2E教育を実践する地域や学校があることなどを挙げた。

第4章「発達障害とさまざまな能力を持ち合わせる人々—映画に見られる多様性」では、発達障害（特に自閉症・アスペルガー症候群）の人物が登場する映画16作品（1988-2020年：アメリカ、韓国、フランス、日本、スウェーデン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、シエラレオネの人々について）を一覧にし、2E的な特性を示す人物が登場する5作品の内容については詳しい説明を加えた。映画の登場人物は、発達障害という意味では共通しているが、一人一人の好きなことや得意なことは大きく異なり、障害に対する固定観念（例えば自閉症の人は他人との関わりを嫌う、コミュニケーションが苦手など）とは異なる真の姿が映し出されていた。発達障害の人々は一括りにされがちかもしれないが、実際は多様性に富む存在であること、彼らを愛し、見守り、応援し続ける人々（家族、教師、指導者、友人、恋人など）の大切さが描かれていた。

第5章「発達障害のあるヴァイオリニスト：廣澤大介氏」は、発達障害と音楽の能力が共存する事例である。廣澤大介氏（現在40歳）は、7歳よりヴァイオリンを始め、2006年25歳でプロのヴァイオリニストとしてデビューした人物である。軽い知的障害と広汎性発達障害と診断されて以来、20年以上に渡り「学習障害」と思われていたが、2009年には「広汎性発達障害に含まれる自閉症で、サヴァンの傾向が強い」と診断された。本章では、廣澤氏の生い立ちやこれまでの歩みに加えて、母親、フリースクール主宰者、ファンクラブ会長、音楽・ヴァイオリン指導者（計3名）が行った療育や指導に2E教育的なステップが含まれていたことについて分析した。

第6章「発達障害のある版画家・画家：石村嘉成氏」は、発達障害と美術の能力が共存する事例である。石村嘉成氏（現在27歳）は、知的障害と自閉症があり、幼い頃から昆虫や動物などの生き物に対して並外れた興味・関心を持ち続けている。高校3年生の時に美術を学び始めて以来、さまざまな生き物を題材にした版画や絵画の作品は国内外で受賞を重ね、アーティストとして活動の幅を広げている人物である。本章では、石村氏の生い立ちやこれまでの歩みに加えて、両親、美術教師が行った療育や指導に2E教育的なステップが含まれていたことについて分析した。

終章では、本研究を通して得られた知見をまとめ結論とした。まず、障害や外国人などの「ラベル」を全て取り除き、人間というものだけが残った時に、その人の真の姿に近づくことができることについて、また廣澤氏と石村氏の事例から、本人の好きなことや得意なことを目ざとく発見・尊重してさらに伸ばすという方向性を持ち、発達障害児・者を療育、指導、応援する周囲の人々の存在が不可欠であることについて述べた。

## 論文審査結果の要旨

専攻名 国際学研究専攻

氏名 三浦美恵子

### 1. 審査概要

#### (1) 予備論文審査

2021年9月、学位請求のために提出された予備論文「障害と能力・才能は共存するー障害者理解の新視点」に対して、国際学研究科教員の審査委員5名からなる予備論文審査委員会が設置された。予備審査委員会は2021年10月18日に開催された。

予備審査委員会では、博士論文としての水準を学会誌への掲載や分量により確認した。予備論文提出までに学会誌への掲載が決定された論文は1編あった（「発達障害のあるアーティストの能力が引き出された要因ー両親と美術教師の歩みに対する広義の2E教育と臨床美術からの考察」（『臨床美術ジャーナル』第10号No. 1. 2021年11月刊）。また、2020年9月に刊行された国際学部研究論集（第50号）に「特別支援学級における外国人児童生徒の在籍状況に関する一考察」が、また、2021年9月に刊行された宇都宮大学国際学部研究論集附属（第52号）に「障害と能力・才能は共存するーアメリカにおける2Eの概念および実践からの示唆」が掲載されている。予備論文は、障害と能力・才能は共存することを発達障害のあるアーティストのケーススタディを基に詳細に検証した労作として評価された。教育的な観点から加筆・修正に取り組む課題について、以下のコメントが出された

- ・第6章で取り上げた内容に関して、2Eに関する考察がやや希薄である。
- ・一貫性という点で問題があり、第1章と第3章以降の関連性を整理する必要がある。
- ・本研究で得られた知見を結論としてより体系的にまとめる必要がある。
- ・原文や原典を確認すべきところがある。

以上を総合した結果、学位論文の審査請求に値するという合意が全員一致で得た。

#### (2) 学位論文審査

学位請求論文が提出されたことを受けて、2021年12月28日に予備論文審査の時の国際学研究科教員の審査委員5名と学外審査委員1名からなる学位審査委員会が設置され、2022年1月26日に、第1回委員会、口述による最終試験、第2回委員会を実施した。

### 1) 第1回学位審査委員会

予備論文審査において指摘された改善事項を確認した結果、いずれも改善が認められ、全員一致で最終試験を行うことにした。

### 2) 最終試験

最初に三浦美恵子氏に対して本論文がどのように改善されたかを中心に説明を求めた。三浦美恵子氏からは、改善事項に対する加筆・修正点として以下の説明があった。

- ・第5章（予備論文では6章）については、追跡調査も行き、2E教育の視点から大幅に加筆した。

- ・原文や原典を詳細に確認した。
- ・論文全体の一貫性が担保されるように、第1章の内容を修正した。
- ・第4章では、より多くの映画作品を取り上げ、障害の多様性を詳しく論じた。
- ・本研究で得られた知見を結論としてより体系的にまとめた。

その後、質疑応答を行った。予備論文で指摘された箇所について、再考や修正に十分に工夫された跡がうかがえるとともに、論文構成（序章から終章のまとめ）が体系的に整理されていることが確認された。

### 3) 第2回学位審査委員会

論文審査および最終試験での三浦美恵子氏との質疑応答の結果から、博士後期課程の論文評価基準に照らして、学位論文〔博士（国際学）〕の要件を満たしているとの結論に達した。

#### 評価される点

- ・問題意識が鮮明、課題設定が明確である。
- ・先行研究を十分に整理している。
- ・本論に関係する重要な関係者に対する調査が精力的に幅広く行われており、また調査結果について2E教育的観点に基づいて時間をかけて丁寧に考察しており、本論文のオリジナリティを担保している。

#### 今後の課題・期待

- ・2E教育的観点からの研究をさらに進める。
- ・日本の障害者教育の課題と改善点について広く発信していく。
- ・理論的な分析力を鍛え、理論構築に貢献できる研究に発展させる。

## 2. 審査結果